

輸出事業計画

※申請者名：公益財団法人くもと産業支援財団

品目：米粉、茶、味噌醤油、発酵食品、海苔

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- コロナ禍の外出自粛に伴い、日常での購買行動はECでの購買に移行したが、多くの生産者はEC販売のノウハウは持っておらず、チャネル移行に対応できていない。
- 原油高騰のため、お茶などの農業加工品の国内売上・利益率は低下している。
- 海外での日本の食材の評価は高く、新たな市場としての期待が大きい。オンライン商談会や展示会への出展支援、テスト輸出、海外小売店での「熊本フェア」などの実施を通して徐々に輸出額は増加している。
- 日本食品の小売販売形態は食品専門店、大・中規模小売、老舗百貨店の食品館、有機・自然食品店、専門店、通販であり、パッケージのデザインには日本語が使われた商品も多く、日本食に対するニーズは高い。
- フランス料理の世界では、誰も知らない希少価値の高い食材は重宝され、日本で生産された個性的な地域食材は、このようなシェフの要求に応える素材としてニーズが高い。
- EUにおける混合食品、食品添加物、残留農薬に関する規制については、中小事業者にとって言語の面や原材料に応じて対応方法が多岐にわたるなど、ハードルが高い。

【課題】

- 現地ニーズに関して嗜好や味覚についての客観的な把握ができておらず、現地ニーズに合う商品開発ができていない。
- 現状の商品は、現地の法規制やガイドラインに対応して製造したものではなく、原材料、食品添加物、重金属などポジティブリストへの対応が、中小の事業者単位では困難。
- EUにおけるHACCP認証や有機認証等、加工施設への規制対応が必要とされている。
- 当該国の規制に関する最新情報（添加物・包材規制の内容、証明方法、分析費用等の個別情報）の取得が困難である。
- 多くの地域産品は、生産量も少なく、国外での知名度が低い商品であることから、商社の商流には乗りにくいものである。
- 現地に合わせた言語対応・PR方法（商品の表現方法等）が十分にできていない。
- フランスにおけるサステナブル消費の潮流に対応した包材や商品開発が課題である。

輸出事業計画

※申請者名：公益財団法人くまもと産業支援財団

品目：米粉、茶、味噌醤油、発酵食品、海苔

2. 輸出事業計画の取組内容

① 《ニーズ把握事業》

消費者嗜好調査、マーケティングリサーチ、シェフやパティシエによるプロ評価を実施する。商品・素材の持つ潜在ニーズや輸出上の課題を明らかにし、事業者へ還元する。（令和3年度～令和5年度）

② 《ニーズにもとづく輸出商品開発事業》

ニーズ調査結果の解説をする研修会を実施する。事業者自身による気づきと、商品改善を促し、輸出対象商品の商品力向上を図る。（令和3年度～令和5年度）

③ 《フランス市場の開拓事業》

フランスでのニーズ調査を踏まえ、新規市場を開拓するため、取引確度の高い商流、キーカンパニー探索やテスト販売、商談会設置などを実施する。（令和3年度～令和5年度）

④ 《フランス・EU市場向け輸出規制対応支援事業》

IoT、AI等のデジタル技術を用いて、輸出申請に関わる書類の雛形作製や翻訳などを行うサービス開発の可能性について、調査・開発を行う。（令和4年度～令和5年度）

⑤ 《フランス・EU市場向けPR事業・九州テロワール事業》

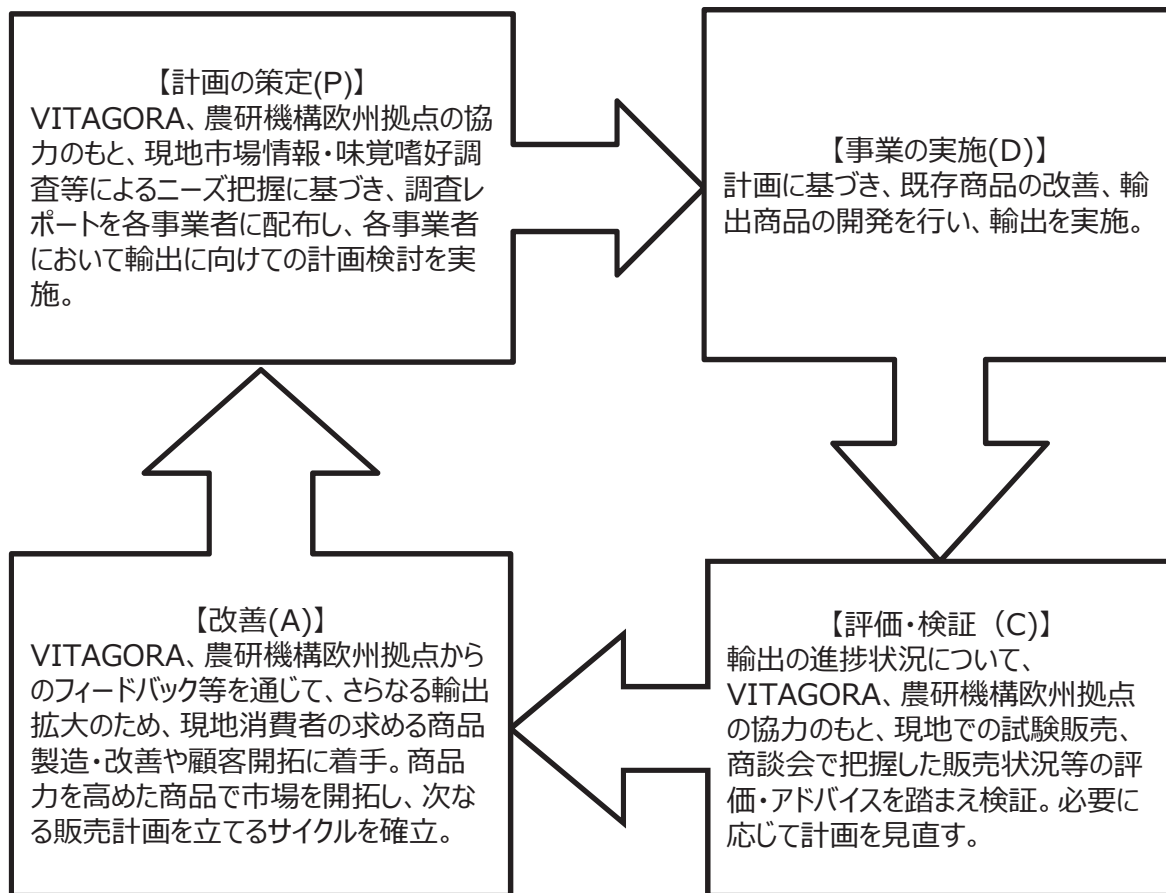
フランスでのニーズ調査を踏まえ、現地の消費者・プロに響くPRポイントを明らかにした上で、日本産加工食品の魅力を発信するPR動画、WEBサイトを構築するとともに、SNS戦略を構築し展開する。特に、YouTube等を活用したダイレクトマーケティングの戦略を構築し、ニーズに即した効果的なPRを実施する。（令和4年度～令和5年度）

輸出事業計画

※申請者名：公益財団法人くまもと産業支援財団

品目：米粉、茶、味噌醤油、発酵食品、海苔

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	【現状】 (令和3年度)	【目標】 (令和6年度)
輸出額 (円)	66万	8,270万
輸出量 (kg)	200	60,600
主な輸出先	フランス・ドイツ	フランス・ドイツ